

大阪府麻しん風しん対策部会
2026年10月23日（金）14～16時
国民會館 大阪城ビル 12 階 武藤記念ホール（小ホール）

資料 1

(担当)国内及び世界における麻しんの発生状況

砂川 富正

国立健康危機管理研究機構

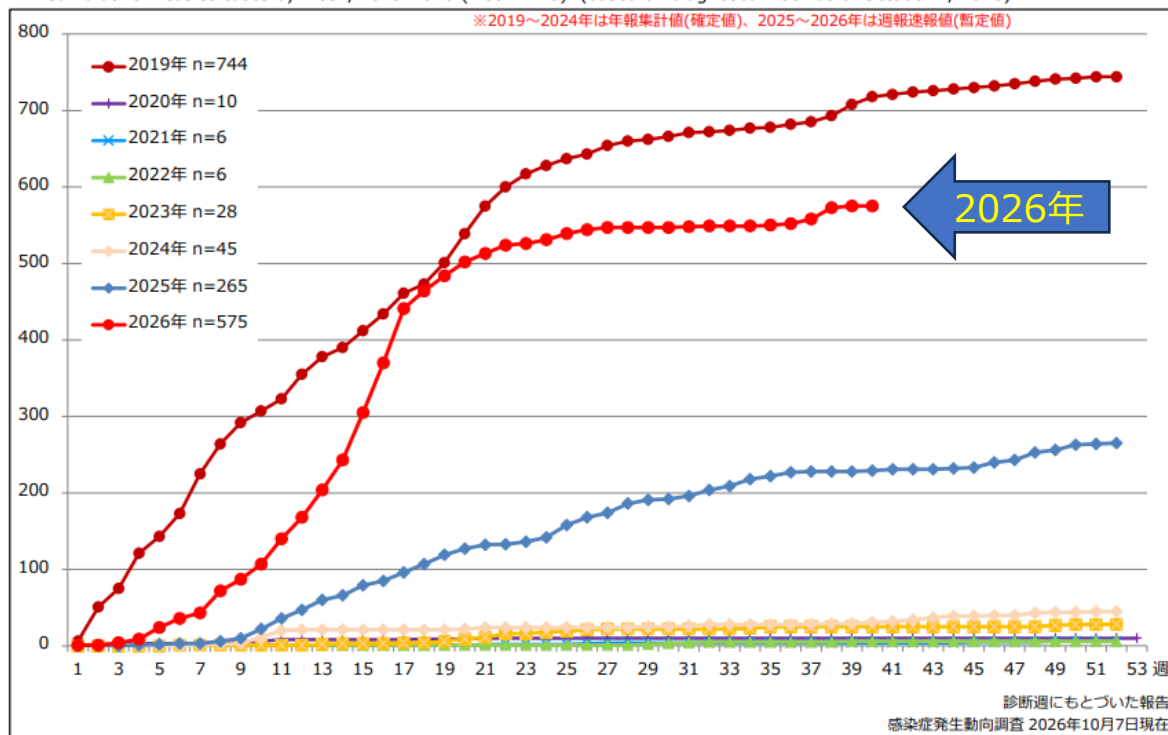
国立感染症研究所 応用疫学研究センター／FETP-J

**公表されている国内の最新情報はJIHS感染研
HPより見る事が出来ます**

累積（左）及び週別（右）麻疹報告数推移、 2026年第1～40週（10月7日現在）（n=575）

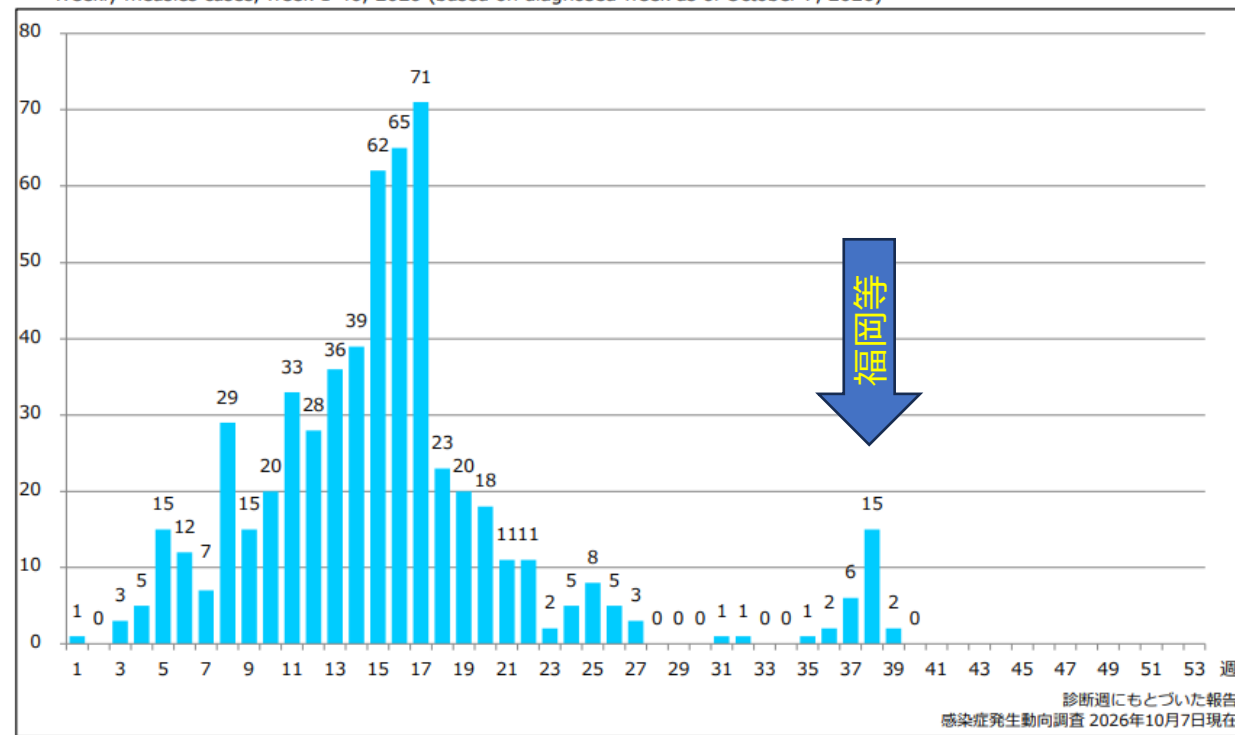
1. 麻疹累積報告数の推移 2019～2026年（第1～40週）

Cumulative measles cases by week, 2019-2026 (week 1-40) (based on diagnosed week as of October 7, 2026)



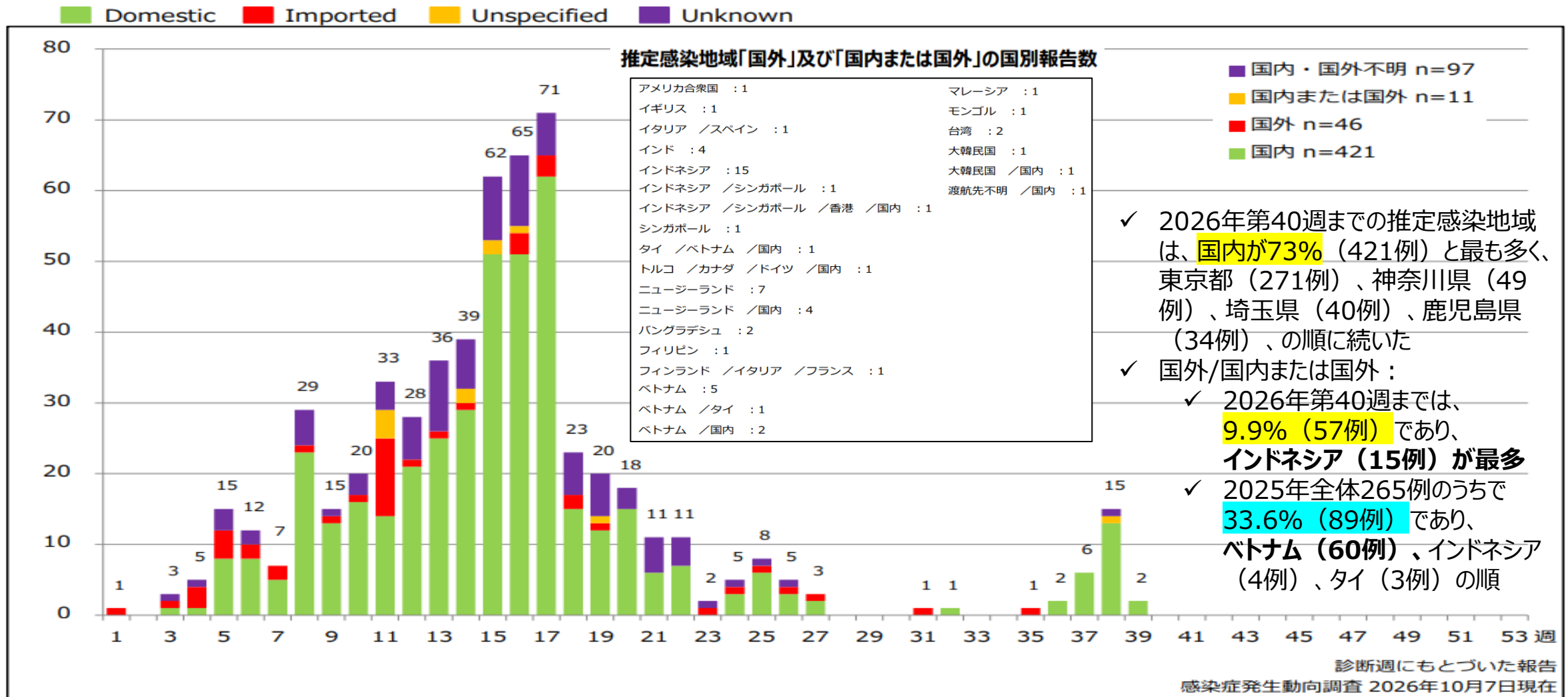
2. 週別麻疹報告数 2026年 第1～40週（n=575）

Weekly measles cases, week 1-40, 2026 (based on diagnosed week as of October 7, 2026)



<https://id-info.jihs.go.jp/surveillance/idwr/diseases/measles/graph/2026/meas26-40.pdf>

週別推定感染地域(国内・外)別麻疹報告数 2026年 第1~40週 (10月7日現在) (n=575)

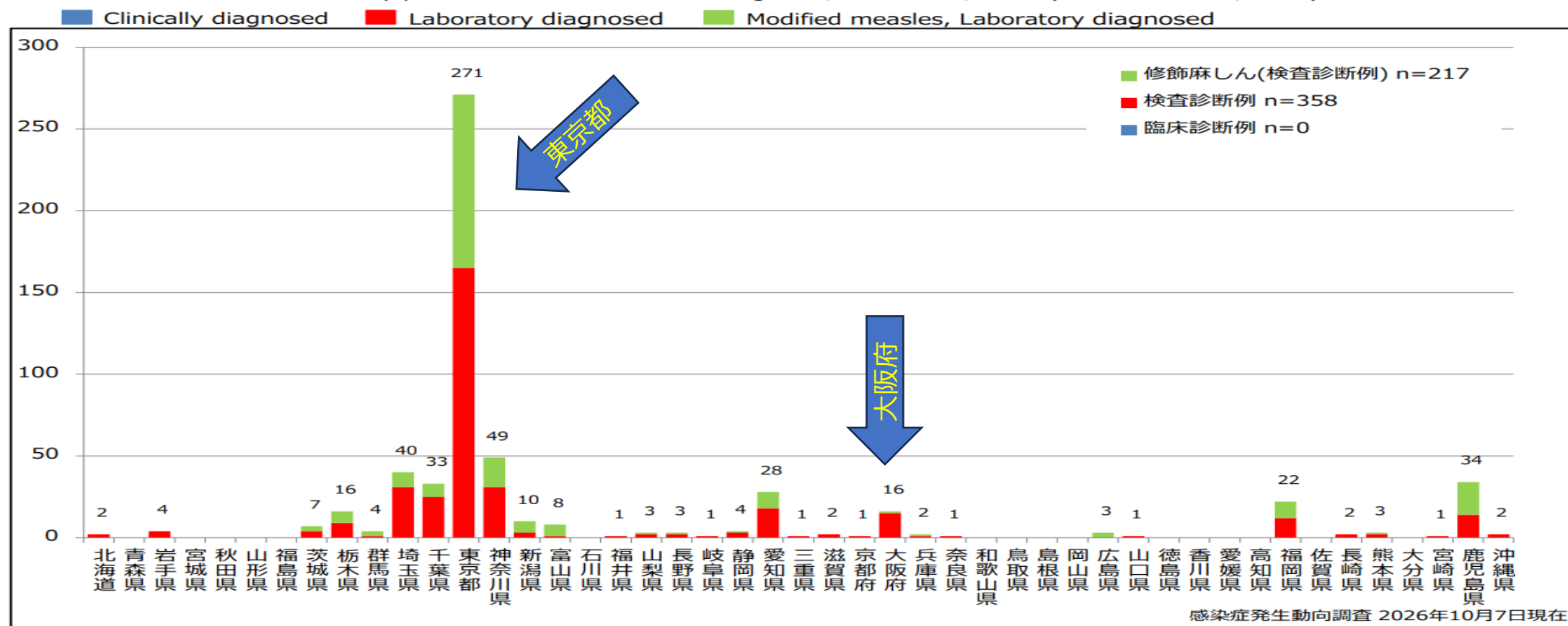


<https://id-info.jihs.go.jp/surveillance/idwr/diseases/measles/graph/2026/meas26-40.pdf>

都道府県別病型別麻疹累積報告数 2026年第1～40週（10月7日現在）（n=575）

4. 都道府県別病型別麻疹累積報告数 2026年 第1～40週 (n=575)

Cumulative measles cases by prefecture and methods of diagnosis, week 1-40, 2026 (as of October 7, 2026)

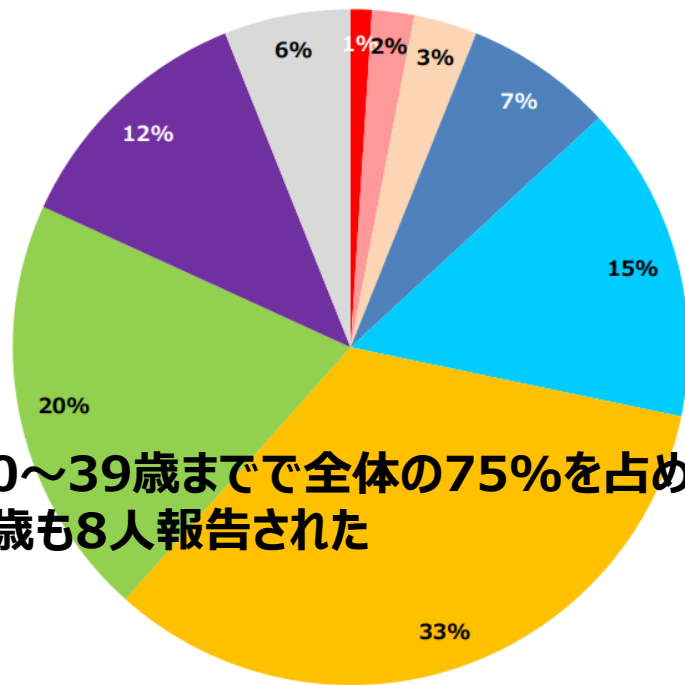


<https://id-info.jihs.go.jp/surveillance/idwr/diseases/measles/graph/2026/meas26-40.pdf>

(左) 年齢群別麻疹累積報告数割合、 (右) 年齢群別接種歴別麻疹累積報告数 2026年第1～40週 (10月7日現在) (n=575)

7. 年齢群別麻疹累積報告数割合 2026年 第1～40週 (n=575)

Percentage of cumulative measles cases by age group, week 1-40, 2026 (as of October 7, 2026)

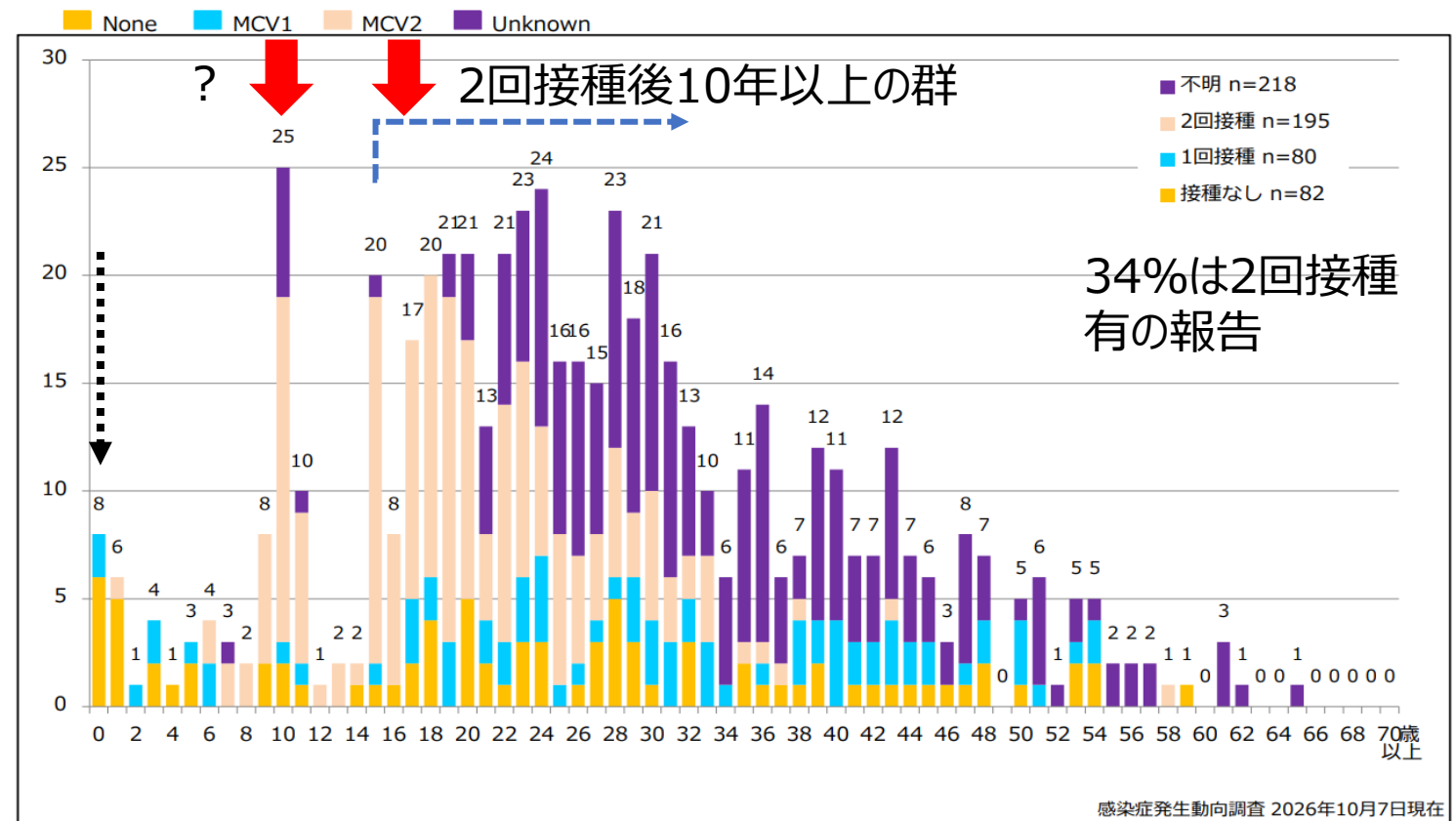


- 10～39歳までで全体の75%を占める
- 0歳も8人報告された

■ 0歳 ■ 1～4歳 ■ 5～9歳 ■ 10～14歳 ■ 15～19歳 ■ 20～29歳 ■ 30～39歳 ■ 40～49歳 ■ 50歳以上

6. 年齢群別接種歴別麻疹累積報告数 2026年 第1～40週 (n=575)

Cumulative measles cases by age and vaccinated status, week 1-40, 2026 (as of October 7, 2026)



<https://id-info.jihs.go.jp/surveillance/idwr/diseases/measles/graph/2026/meas26-40.pdf>

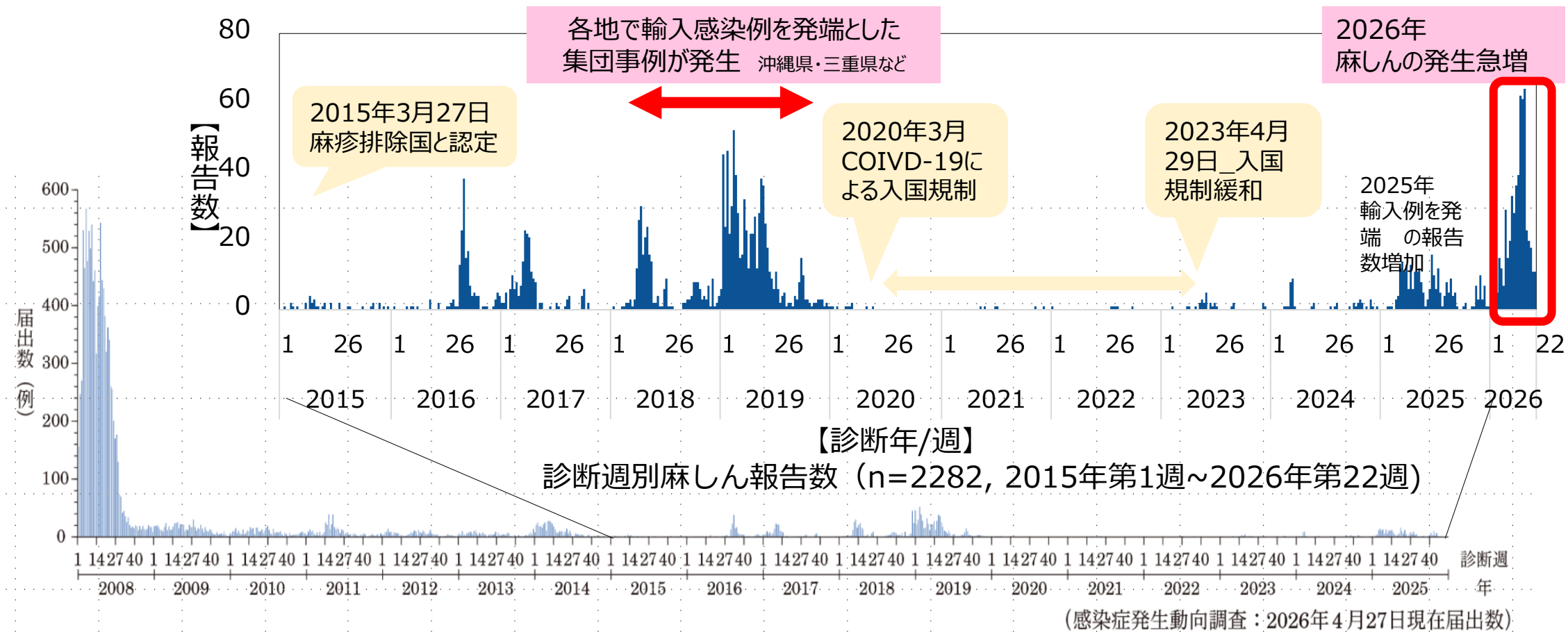
2026年国内症例に関して少し深堀する

2026年第22週（～5月31日時点）の情報 n=513

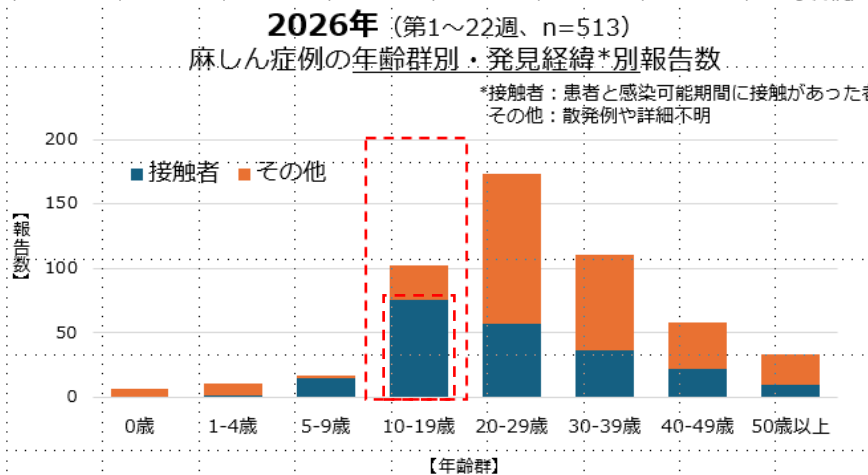
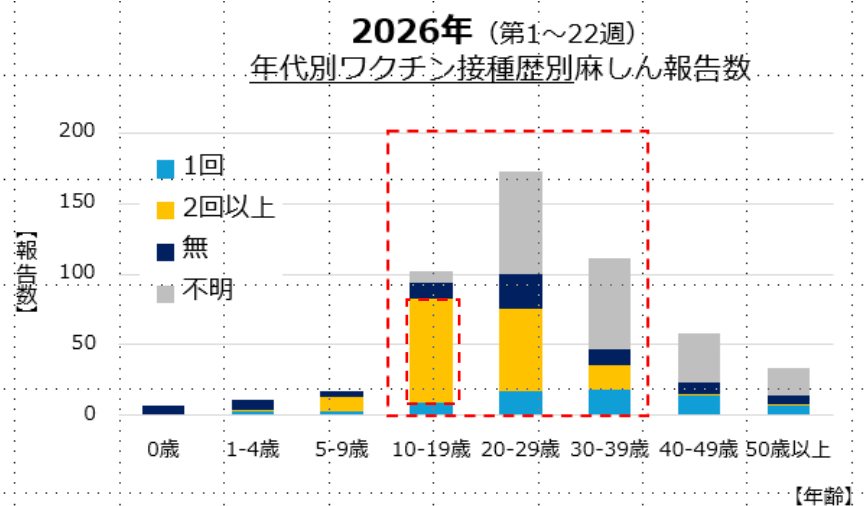


先ほどまでの情報（～10月7日時点） n=575

日本の麻疹全数把握以降の発生動向推移、 2008年～2026年第22週（5月31日時点）



5月(≒9月)末までの2026年の麻疹を概観する



- 死亡者の報告は無し
- 全体のうち10~30代が76%
- 全体のうち2回接種未完了症例が67%
- 10代のうち73%は2回以上接種有報告 (左上図)
 - 10代の75%は接触者調査により特定 (左下図)
 - 10代後半以降は2回接種後約10年前後経過群として説明可能 (参考) 排除環境での2回既接種者の経年的免疫低下傾向に関する研究複数 (JID.2022;226(7)等) ← 予防効果の喪失ではない
- 昨年より有記録の2回接種者からの感染例検証中: 濃厚な接触 (同居家族等) においてのみ確認 ← 拡大予防効果維持
- 2例以上の検査確定例を含む集団発生は、医療機関16件、家庭内28件、学校・保育施設5件、飲食店等7件確認。50例以上集団発生は1件、100例以上0件

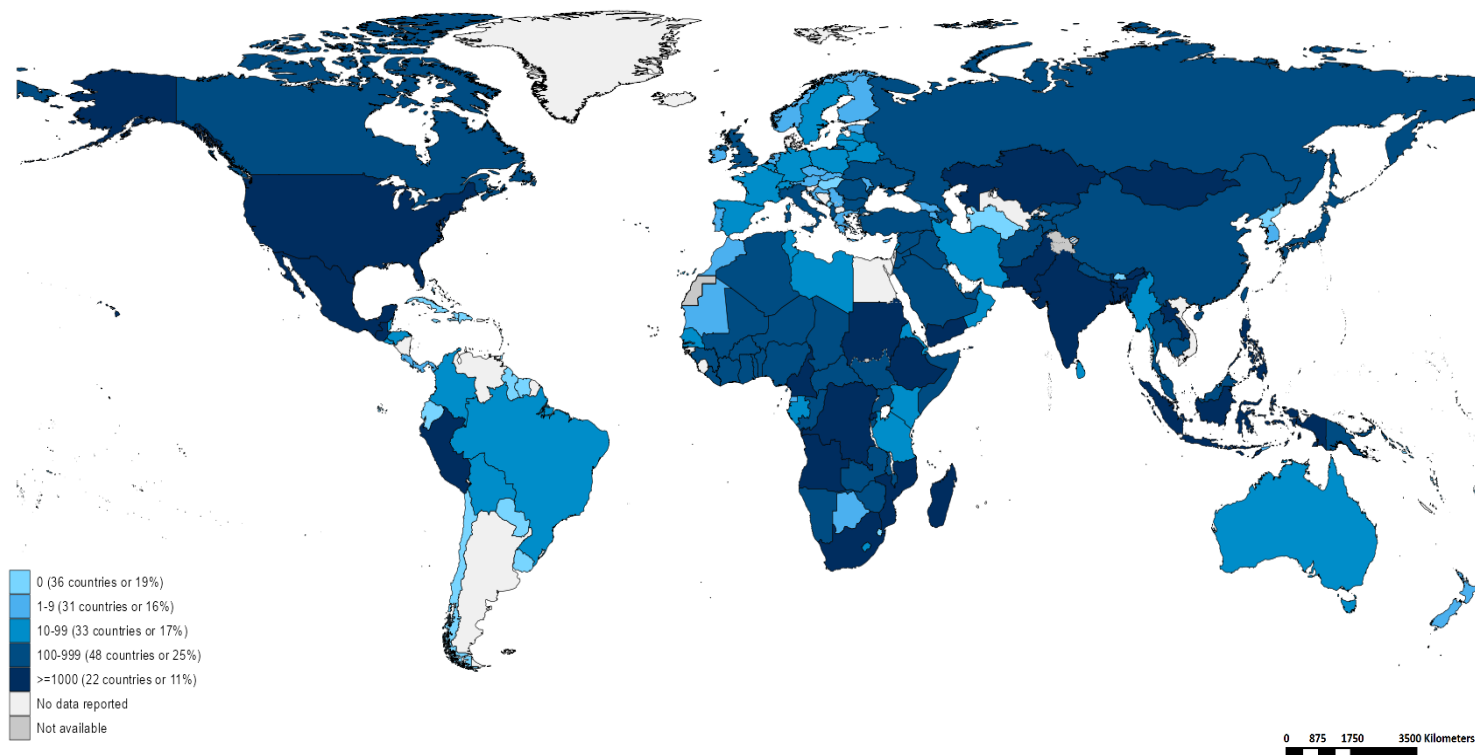
- 大規模な集団発生は2018年の100例超の事例以降これまで確認されていないことが日本の特徴 (年代・地理的なポケットが発生していなければ最も良いが、実際はポケットにウイルス未到達の懸念も?)
- 2回既接種者で感染が起ころても大半は軽症かつ高次感染の可能性は非常に低いー2回接種の徹底を

最近の世界の麻疹の状況と日本への関連・教訓

（こちらも基本は公開情報です）

（主たる出典）WHO Global Situation Update, October 2026, slides 2・4。2026年10月データ。

2025年6月から2026年5月まで（6カ月間）の麻疹報告数 （WHOによるまとめ）



Map production: World Health Organization, 2026. All rights reserved
Data source: IVB Database

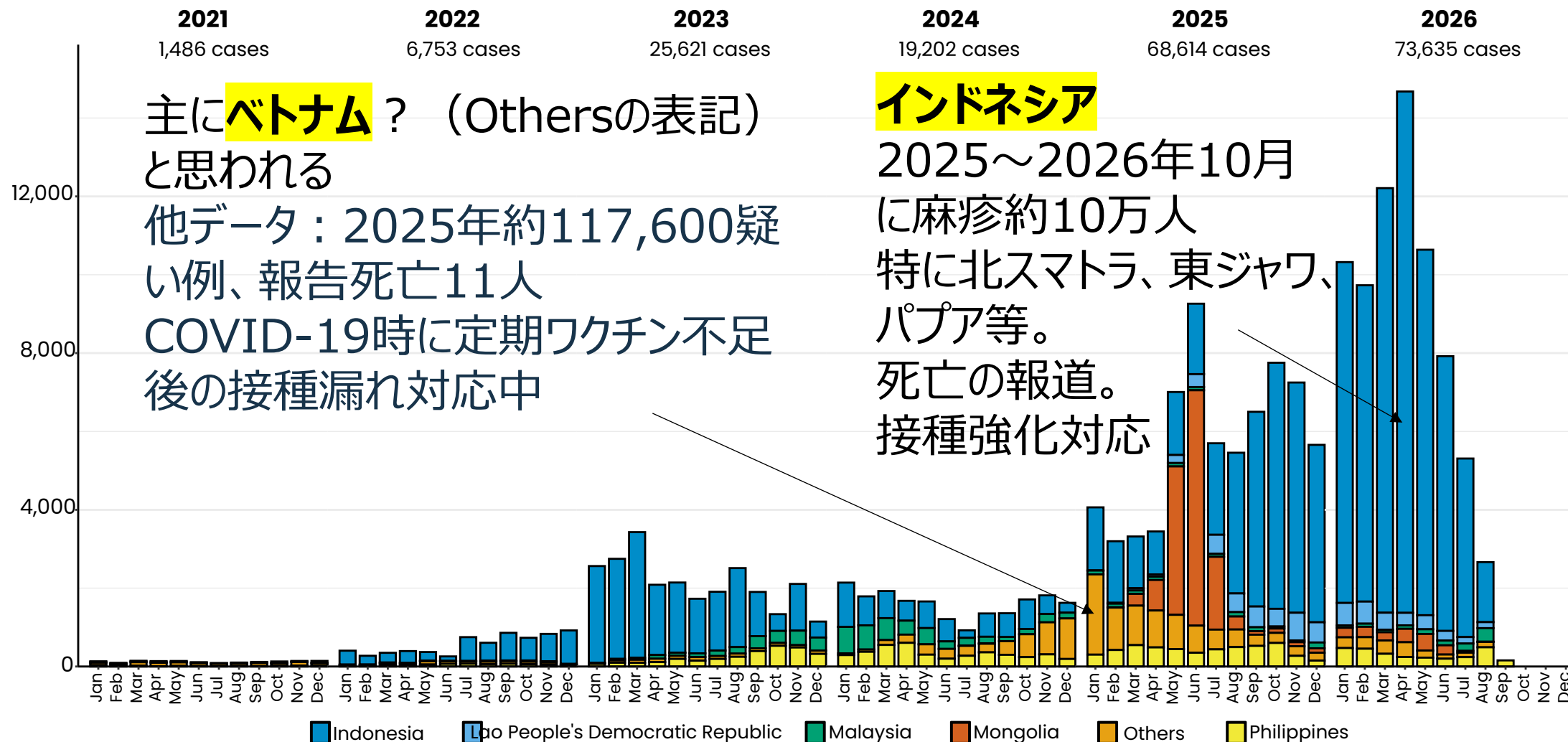
Disclaimer: The boundaries and names shown and the designations used on this map do not imply the expression of any opinion whatsoever on the part of the World Health Organization concerning the legal status of any country, territory, city or area or of its authorities, or concerning the delimitation of its frontiers or boundaries. Dotted and dashed lines on maps represent approximate border lines for which there may not yet be full agreement.

国名	症例数*
バングラデッシュ	65,439
インドネシア	46,578
グアテマラ	31,222
インド**	18,863
イエメン	12,931
パキスタン	9,130
メキシコ	6,844
カメルーン	6,099
南アフリカ	5,209
スーダン	4,285

（主たる出典）WHO Global Situation Update, October 2026, slides 2・4。2026年10月データ。

Notes: Based on data received 2026-10 – Surveillance data from 2026-03 to 2026-08 – * Countries with highest number of cases for the period – **WHO classifies all suspected measles cases reported from India as measles clinically compatible if a specimen was not collected as per the algorithm for classification of suspected measles in the WHO VPD Surveillance Standards. Thus numbers might be different between what WHO reports and what India reports.

2021年から2026年10月までに受領した西太平洋地域（WPR）の麻疹の発生推移



出典：ベトナム政府統計（2026年1・10月）、WHO世界月報（2026年10月）。WHO Indonesia 2026年6月5日、2026年2月9日。他

Based on data received 2026-10 - Data Source: IVB Database

主としてWHO資料について砂川加筆（文責）

THE BUSINESS STANDARD

Monday
October 12, 2026

LatestEconomyVideosWorld+BizFeaturesSubscribe

আস্হা, পাইপের বস-এ
আস্হা, আরএফএন পাইপ-এ

৪৫ বছরের আস্হায়ে

আস্হার ওপর কোকচন কৃষিরিয়ার চিত্রণ

AFI
আর এফ
Pipe & Fi

- バングラデッシュ
- コンゴ民主共和国 (DRC)

- パキスタン
- イエメン
-

 BANGLADESH

RELATED NEWS

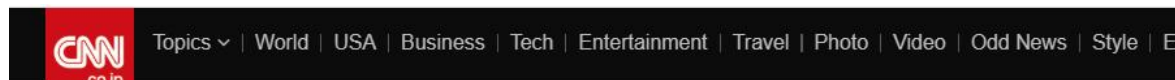
Measles: Death toll at 1,144 as 4 more children die

A close-up photograph of a young child with dark skin and short hair. The child's face shows several small, raised, reddish-brown lesions, likely scabies, particularly around the eyes and on the cheeks. The child has a sad or distressed expression. They are being held by a person whose arm and shoulder, covered in a red garment with a pink and yellow floral pattern, are visible in the foreground. The background is a blurred indoor setting, possibly a clinic or hospital, with white walls and some equipment.

A child with measles with his/her mother. Photo: Collected

2026年の米国における麻疹死亡の報道

(n=5, 6 ?)



USA

はしか関連で今年初の死者、2人ともワクチン未接種 米ペンシルベニア州

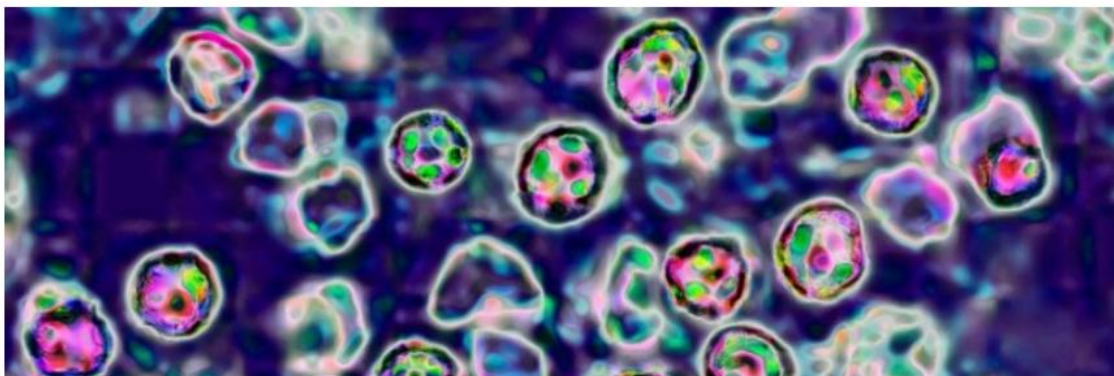
© 2026.08.26 Wed posted at 11:32 JST

✕ ポスト

B! ブックマーク 2

PR

- ・世界の芸術や建築、ファッションがわかるCNN「Style」
- ・旅に出たい！ CNNが海外の隠れたスポットなど紹介
- ・CNN.co.jpメルマガ購読者募集中！



YAHOO! JAPAN ニュース 登録情報を確認
🔥 [おトク] 10%OFFクーポンあります

キーワードを入力



トップ

速報

ライブ

エキスパート

オリジナル

みんなの意見

ランキング

主要

国内

国際

経済

エンタメ

スポーツ

IT

科学

ライフ

地域



SALE限定プランでお得にレンタカー予約
楽天トラベル レンタカー

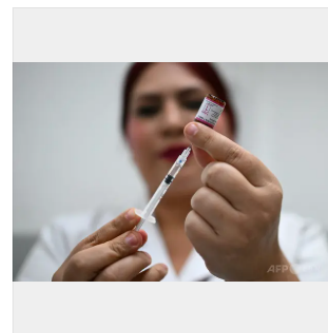
広告 ✕

米国で今年3人目の麻疹死亡例、ワクチン懐疑論背景に感染再拡大

9/14(月) 13:37 配信 9 🗨️ 🗳️ 🗳️ 🗳️



AFP BB News



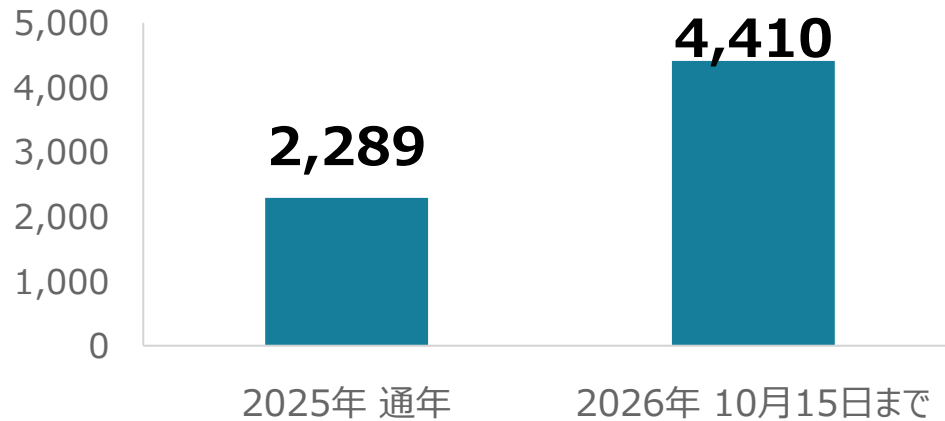
予防接種を準備する医療従事者
(2026年4月15日撮影) 【参院選】

【AFP＝時事】米ペンシルベニア州の当局は13日、州内の女性（40）が麻疹（はしか）による合併症で死亡したことを明らかにした。麻疹は予防可能な感染症だが、ワクチン接種率が低下する中で確認された3人目の死者となった。

【関連記事】米国ではしか流行、ここ35年で最多 子どもにワクチン接種させない保護者が増加

米国の麻疹に関する情報：2025年から2026年も流行が継続・拡大

発生動向



2026年：96%がアウトブレイク関連

4,228／4,410例。新規アウトブレイク42件 [1]

死亡：CDC報告と州報告

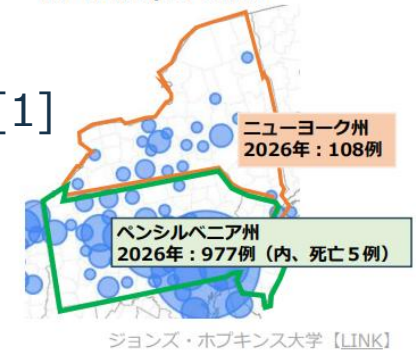
2025年：3人（未接種の小児2人・成人1人）

2026年：CDC全国2人、ペンシルベニア州は5人を報告*

地理的分布

2025年はテキサス・ニューメキシコ等で大規模流行[1]
2026年10月：ペンシルベニア州1,136例、NY州126例 [3]

■ NY州及びペンシルベニア州の発生状況（10/1時点）



背景の分析

就学前児のMMR接種率：95.2%から92.4%へ低下
（2019-20年度から2025-26年度） [1]

成人を含む未接種者の地域的集積と、海外からの持込み継続が背景

対策

MMR接種・接種漏れの補完、迅速な探知と空気感染対策
接触者調査・曝露後予防。CDCはペンシルベニア州への支援
NY州は非常事態を宣言（2026年10月） [2,3]

[1] CDC 2026/10/16更新（症例は10/15まで、2025-26年は暫定値）

[2] CDC 2026/1/26、MMWR 2025/4/24 [3] Reuters 2026/10/13（ペンシルベニア州症例・死亡は10/9、NY州症例は10/13）

麻疹再興について欧米で指摘される公衆衛生上の“構造的脆弱性”とは何か：

Structural vulnerability あるいは Structural barrier

欧米の国々に関する分析で注目されているのは「単年の症例数の増減」ではなく、**構造的脆弱性の存在**

すなわち：

- COVID-19により形成された**未接種ポケット**の温存
 - 特定コミュニティにおける**ワクチン忌避**の集積
 - 感染症サーベイランスシステムの劣化による**早期検知と初動対応**の速度低下
- これらの要因が揃った時、一件の輸入例に端を発する大きな集団発生が顕在化する。
この教訓は日本においても踏まえるべきと考える
- ➡ 公衆衛生システムの問題が潜在的に発生すると、強い感染力と迅速な公衆衛生対応が必要な麻疹の流行は「**公衆衛生システムの炭鉱のカナリア**」として機能する

Brand et al[[LINK](#)]

ECDC[[LINK](#)]